

「神石高原ぶどう」

50ha産地化プロジェクト」推進中

神石高原町のぶどうは、夏の涼しい気候と生産者・各関係者の努力により、甘くて色づきの良い果房の安定生産を行っており、市場でも高い評価を受けています。

農協ぶどう部会の加藤正夫会長は「今までぶどうをつくったことのない人や集落法人にもぶどう栽培を勧めていきたい。部会員の連携を図って品質の高いぶどうをつくって市場に出荷し、消費者にも高い評価をもらえる商品にしていきたい」と語っておられます。

10年後のぶどう栽培面積50haで、
県内の主力産地を目指します。



神石高原町が

目指す

集

平成19年度から神石高原町は元気な農林業を推進しています。



「継続的な

30haとまと産地確立」

冷涼な気候を生かした夏秋とまと「神石高原トマト」として、現在9ha(54戸)栽培しています。昨年は出荷組合員全員がエコファーマーの認定を受け、安心安全な広島のブランドとして、大阪市場等へ出荷しています。また、今年から㈱神石高原農業公社では新技術の「とまと袋培地栽培」に取り組んでいます。

10年後のとまと栽培面積30haで、
トップブランドを目指します。



元気な

特

農林業の推進

「ぶどう・とまと・和牛・法人化」これら4つの柱で神石高原町の農林業を支えます。

農事組合法人の設立を手助けします

「農事組合法人

高原の里まき」が設立されました



牧地域では、昨年から集落営農に取り組みべく話し合いを重ね、7月15日に「農事組合法人 高原の里まき」の設立総会が開催されました。経営計画では、水稲を中心におどろや飼料稲などの栽培を予定されています。「生き生きと、安心して暮らせる里」を作るため、集落ぐるみで農地の効率利用を図り、経営の高度化を視野に入れた法人経営を目指しています。

※町内では吉ヶ迫・桑木・亀石・ニューファーム新坂に次ぐ4番目の農事組合法人設立です。

神石高原和牛の里

再構築

プロジェクト

- 産業として自立できる畜産業の確立と神石高原産和牛肉の安定供給。
- 耕畜連携をたい肥センターや農業生産法人を中心に推進。
- 新たな担い手が取り組める畜産業。

神石高原和牛の里

10,000頭を

目指します。



第9回全国和牛能力共進会に町内より4頭出場

10月11日(木)～14日(日)に鳥取県米子市で開催される第9回全国和牛能力共進会に、横尾規男さん(草木)飼養の「よこた6」、黒田昇さん(高光)飼養の「ふじい4(母)」、「ふじさかえ(娘)」、「ふじさかえ2(孫娘)」の4頭が広島県代表牛として出場します。今後益々のご健闘を期待します。